

## 2018年S Semester 留学報告書（派遣先：ソウル大学校自由専攻学部）

教養学部学際科学科地理・空間コース4年 柴田卓巳

### I 初めに

2018年S Semesterの1学期間、ソウル大学校自由専攻学部に留学した。以下II節では授業、III節では人的交流について、IV節では日韓関係について、V節では留学に至った経緯や全体的な所感を述べる。

### II 授業

思ったより聞き取れなかった。第二外国語としてそれなりに学習してきたつもりだったのだが、それでも聞き取りには難儀した。先生の喋り方や私のそのときの調子のようなものにも依るのだが、50%聞き取れて20%推測で補って30%何も分からないというのが続いたし、今でも多少はましになったがそれでも100%は理解出来ない。授業が始まって1ヶ月もせずに気付いたのが、「実は東大で授業を受けてた留学生や大学院に居る留学生って天才なのでは??」ということだった。私が東大で受けていた授業の中には、たまに留学生も履修しているものもあった。そのときはへーくらいの感想しか無かったのだが、母語以外の言語で授業を受けることの何と難しいことかを知ってから、あのとき普通に授業を受けていた留学生や、私と普通に日本語で会話していた同じコースの大学院に居る留学生は、実は相当な努力を積んでいたのではないかということに気付いた。もしかしたら授業を聞き取れている振りをしている一方で実は全然聞き取れていないという私みたいな人も居るかもしれないけれども。(別に冷たく接していたわけではなく無関心だったのだが)「これからは留学生に優しくしよう……」と心に決めるという副産物を得た。

最初は6コマ18単位登録していたのだが、「韓国の地理」という授業を取り消すことにした。1週目は、6コマは重いけど折角だし履修するか、いやでも重いか……などと、一緒にソウル大学に来ていた学生の履修状況も参考にしながら悩んでいたのだが、2週目にその授業で他の学生と討論する機会があり、韓国語が出来ず真面に討論出来なかったため、自分も辛いし他人にも迷惑を掛けると考え、地理学専攻としては是非履修すべきと思われそうな科目であるが、取り消すこととなった。既に月例報告書の方に文句を書き連ねたので簡単に済みますが、履修を取り消すのに教員の判子を貰わないといけないのが非常に面倒。履修システム上で自由にさせれば良いのでは。また授業にも定員が決まっていて、しかも先着順。回線の速さが物を言う。人が多ければ教室を替えれば良いのでは。また120人くらい履修

している大教室での授業でも態々TAを動員して出席を取るほどに出席には厳しく<sup>1</sup>、全授業で出席を取っていた。そこ迄する必要あるのか？ またこれは逆に、聴講、所謂潜り込みをして、履修していない授業にも自由に出席して自由に講義を受けるというのが出来ないことを意味する<sup>2</sup>。図書館も、現地かインターネット上で席を予約しないとイケない。「これ要る？」というような制度が多い。東大の（良い意味での）適当さが無い（無くなってしまった？）ように感じた。

毎週課題が出るなど東大より課題が重いと聞いていたが、私が受けた5科目は、①毎週課題あり、②参考文献が配布され、読まなくても良いが読まないと試験が分からない、③前半は課題無し・後半は毎週課題あり、④⑤課題無し、であった。東大より少し重いくらいで、恐れていたほどではなかった。但し、韓国語で課題をこなさなければならないので、日本語なら軽いはずの課題でも時間は掛かってしまう。

授業ごとに考えが一新されるような新たな発見が待っているとかいうそんな夢のような話は当然無いわけだが、卒業論文やそれ以降のテーマを考えるに当たって、今の段階で手掛かりになりそうなものはそれなりに得ることが出来たし、東大では開講されていないような授業をソウル大学で履修することが出来、また今後も関わっていきたいと思えるような先生にも出会え、得たものについては満足している。

また悪いことではないとは思うのだが、志望動機に書いた「韓国の交通体系が日本に適用出来るか否か」というような調査・研究課題については、検討すべき点が余りに多く卒業論文では絶対に書き終わらないということが分かったため、これは大学院以降での課題に回ささせていただきたい。卒業論文ではまず日本の事例について詳細に調べ、その上で韓国や中国の交通体系を参照し検討をしたいと考えている。卒業論文で扱うには課題が龐大過ぎて無理ということが分かったのも、これもまた私としては留学で得たものと考えている。

留学前に想定していた暇な時間にやりたかった別の勉強が全然出来なかったというくらいには、それなりに時間を費やして勉強していたはずなのだが、成績は大して良くなかった。留学生には甘めの成績を付けてくれるだろうと思っていたのにそんなことは無く普通の学生と同じ基準で成績を付けられたことや（甘めに付けた上で悪い成績だったのかもかもしれないが）、私自身、或る科目について自分が納得出来るところまで学習したら後はそれなりにして別のことに時間を使おうという質（たち）なのが原因だと思う。来学期は北京大学に留学

---

<sup>1</sup> 但しこの大教室での授業の教員に聞いたところ、本人は提出物や試験で出来ていれば良いと思っているのだが、TAから「出席を取らないと『何で出席していない奴の方が点数がいいんだ』と苦情が出るから絶対取ってください」と言われて出席を取っているのだそう。東大でも入学して初めての学期が終わると「何で出席していない奴の方が点数がいいんだ」と、世の不条理を前にして友人との間で文句を言うしかなかったのが懐かしい。教員が学生だった頃のソウル大学は緩かったが、今は厳しくなってしまうとねえとのこと。

<sup>2</sup> 駒場の教務課も公式には認めていないが。

するが、同じようにやっていたら今度は更に悪い成績になってしまい兼ねないので、ソウル大学での失敗を肝に銘じて北京大学での留学に臨みたい。

### III 人的交流

大失敗。というより元々大した成果を挙げられるとは思っていなかったが、思った以上に成果が無かった。

まずサークルに入って活動するつもりだったのだが、サークル内の連絡・情報交換に利用しているサイト(NAVER)に登録するためには韓国の携帯電話番号が必要で、持っていなかった私は登録出来ず、連絡も情報も殆ど入ってこず、活動に全然参加出来なかった。半年だし料金そんなに安くないし元々そんなに電話しない人間なので、携帯電話は別に契約しなくていいやと思っていたのだが、ここで引掛かってしまった。そもそも韓国のサイトは、外国人が登録しようとするとき非常に面倒な認証手続きを要することが多い。上のNAVERのように韓国の携帯電話番号(以前は韓国のものでなくても良かったらしい)や、住民登録番号(?)と紐付けられた(?)I-PIN(?)なるもの<sup>3</sup>を要求してきて、本人であることを厳しく認証しようとするので、極めて煩雑である。(最近は携帯電話番号での認証を要求する場合も増えたが)メールアドレスさえ変えれば複数のアカウントを作成出来るほど緩い日本のサイトと比較すると、一長一短あるだろう。恐らく韓国で生活している分には、自身は当然韓国の携帯電話番号やI-PINを持っていて簡単に登録出来るわけだから、むしろ厳格な認証システムによって守られている方が、安全・安心にサイトを利用してきて便利なのだと思う。

以上のようなこともあったし、それ以前に課題や試験準備、また北京大学留学プログラムの面接や留学自体に臨むための中国語の勉強もあり、とてもサークルに行っている時間は取れなかった。留学前は、サークルで積極的に交流しようと思気込んでいたのが、結局殆ど何も出来ずに終わってしまった。

またソウル大学には「SNU Buddy」という、ソウル大学に来る留学生を迎えて様々なイベントを開催し交流する団体がある。留学が決まった人には連絡が来るので、入会する機会を逃すことは無いだろう。1学期間50,000ウォン(約5,000円)。私も参加したのだが、こちらも殆ど行くことは無かった。その理由として、小さなものも含めると週に3、4回もイベントが開催されているのだが、平日授業時間中のものも多く、週5コマ入っている授業とかぶってそもそも参加出来なかった。どうして君達は毎回毎回参加出来るんだ。更には「やたらと酒を飲みまくるパルピサークル」だったので、酒を飲めずノリにも付いていけない私は行く気が起きなかった。又これは別にサークルの落ち度ではないが、キャンパス・アジア等のプログラムに参加した際に既に体験したようなイベントが多かった。一緒にソ

---

<sup>3</sup> 外国人も発行出来るようだが、手続きが非常に面倒らしい(説明を読むのすらやめるレベル)ので諦めた。

ウル大学に留学した4人の内私を含め3人が入会したが、結局3人共余り参加しなかった。但し、1泊2日の修行体験に2,000円で行けるなど、一般的に掛かる費用より安く参加出来るプログラムも複数あったので、会費の5,000円の元は取れたと思っているし、満足もしている。何より、様々な国から来た留学生と只管飲んでドツタンバタン大騒ぎしたい人は間違いなく参加すべきだろう。

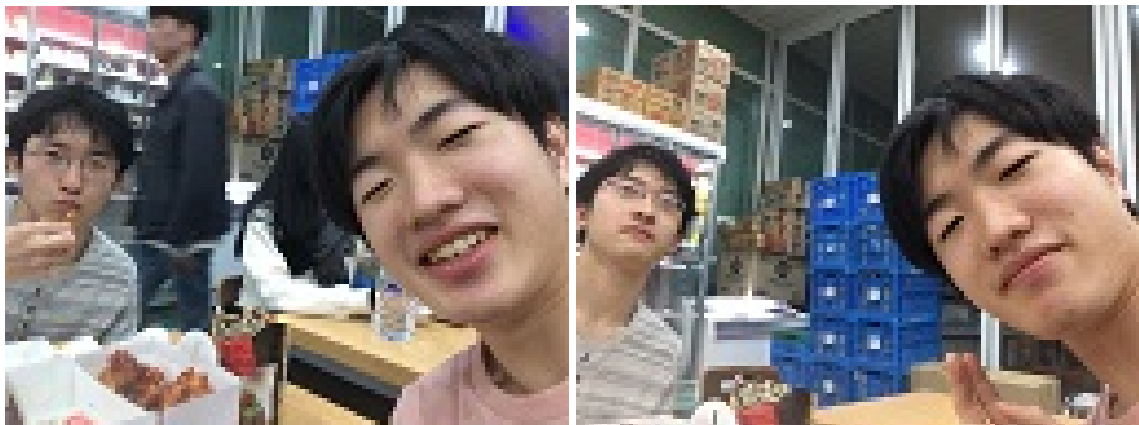


SNU Buddy の1泊2日修行体験で行った救仁寺



SNU Buddy の 1泊2日の合宿で行った宿泊施設

今学期ソウル大学へ行ったのは計4人だったが、行く前から殆どは互いに知っていたので、打ち解けるのも早かった。留学中はSNSで情報交換をしたり、都合の合う日や偶然発見したときには共にご飯を食べたり、たまに遊びに行ったり、かと言って常に日本人同士で群れるというわけでもなく、非常に良好な関係（だったと私は信じているが）の下で安心して留学生活を送れた。初めての留学をこのような心強い仲間と共に送ることが出来たのは、この上無い僥倖であった。この場を借りて心より感謝申し上げたい。



一緒に留学していた学生とチキンを食べながら令和を迎えるの図

左：平成 右：令和

#### IV 日韓関係

依然として浅薄な考えしか有しておらず、語れば語るほどボロが出てしまうので多くは語らないが、実際に現地で経験した物事は、報道から得ただけの情報と先入観を基にした杜撰な言説に対する剣にも盾にもなるだろう。

#### V 終わりに

「留学に行って人生が 180 度変わった」などという夢のような展開は決して無かった。しかし、留学前に参加したキャンパス・アジアの短期交流プログラムから考えれば、私の人生の方向性（そんな大層なものは元々無いが）が少しずつ曲げられて合計 30 度くらいずれてしまった。日本で育った人の大半はそうであるはずで、そうではない人が沢山居る東大の方がおかしいと思うのだが、小中高と何の特殊なカリキュラムも無い公立学校で育った私は、大学入学時まで一切海外に出たことが無く、また積極的に海外を意識して海外に出たい・留学したいという思いは無いが、1 回も行ったこと無いし機会があれば行ってみたいよねくらいの心持ちだった。長期休暇になる度にバックパックを背負って数週間国内旅行に出掛ける「旅行狂」ではあるが、海外に行きたくないわけではないものの海外旅行は費用が嵩むし、日本国内ですら行くべきところが沢山残っているのだから、無理して海外に行く必要は無いという主義の人間だったので（今でもそうだが）、大学に入っても海外へ行く機会は無かった。

私の人生が曲がり始めたのが、1 年次の冬に参加したキャンパス・アジアの短期交流プログラムである。私が海外に行かない・行けない最大の理由が金銭面だったのだが、短期交流プログラムは、何と素晴らしいことに費用が殆ど掛からない。丁度第二外国語として選択していた韓国朝鮮語の授業を 1 年間履修し終わり、自分の韓国朝鮮語がどれだけ「通じないか」を試してみたい、そして、言い方は悪いが「タダで海外に行ける」<sup>4</sup>ということで、一も二も無く応募・参加した。海外へ行くということに対し全くの無知だったので、パスポートは申請すれば 2、3 日で届くものだと思っていたし、2、3 千円くらいで貰えるものだと思ってたし、荷物の少ない国内旅行で稀に国内線に乗る程度にしか飛行機を使った経験が無かったので、韓国で飲むためのミネラルウォーターを大量に空港迄持っていき無事に廃棄する羽目になったし、荷物の個数・重量も上限なんか無いと思っていたので搭乗手続き時に制限に引っ掛かり荷物整理を始める有り様であった。

初めて海外に出て、初めて海外の優秀な大学生と交流して、手垢の付いた言葉で表現出来るような得たものは沢山あったわけだが、今回の留学やその後に、もしかすると最も繋がる

---

<sup>4</sup> 「海外に遊びに行ける」という意味ではなく、「お金が無くて行こうにも行けなかった海外に初めて行ける」という意味である。

ことになったのは、「海外でも意外と生きていけるのでは??」という実感であった。勿論、渡航先が隣国の韓国・ソウルだったため、ご飯もいつも通り毎日美味しく食べられるし、それなりに勉強してきた韓国朝鮮語は通じるし、他国に比べれば普段通りの生活を大体続けられるという利点はあるにせよ、海外に出ていけるかもしれないということが分かってしまった。その後も再び東京大学から奨学金を頂いて再びソウル大学校でのプログラムに参加した。以来、キャンパス・アジアに留学プログラムがあることも既に知っていたので、留学してみることも現実味を帯びてきて、どうするか否か悩むこととなった。その後1年間ほどぼんやりと考えていたのだが、自分が考えていた卒業論文のテーマに韓国の事例を上手いこと関連させてしまう方法を急に閃いてしまい、ソウル大学に行く理由が生まれてしまったので、留学を決定した。尚、韓国朝鮮語の同じクラスや上のクラスの友人・先輩が既に同じプログラムでソウル大学に留学していたので、彼らから聞いた話も留学するか否かを決定する上で大いに参考となった。

理由付けは以上の通りなのだが、現実問題として留学が可能だったのは、キャンパス・アジアの留学プログラムでは奨学金が保証されているからであった。全学交換留学という制度も勿論聞いたことはあったし、1年生のときに少しだけ見てみたこともあったが、ざっと見たところ、授業料を払っていることにされるだけで、生活費等は採用されるかどうか分からない奨学金に応募するなどして自ら調達しなければならぬみたいだった。そのため、留学するとなっても全額自腹で賄う必要があった私は、海外のどこかを対象に調査・研究するつもりも特に無かったので、無理して留学しようとも思っていなかった。この時点で留学というものは全く選択肢に無かった。

しかしその後始まったキャンパス・アジアプログラムの留学プログラムの募集要項を見ると、生きていくのに十分どころか、日本で1ヶ月生きるのに支出している金額の倍以上の支給が保証されていた。~~研究者が海外に流出する理由が分かった気がした。~~それなら丁度韓国朝鮮語も勉強したし、(要する費用を無視するとすれば)留年自体には何ら抵抗は無いし、それに短期交流プログラムに参加した結果、ソウルでも普通に生きていけてしまうことが分かっていたので、留学が現実的な選択肢として急浮上したのである。

兎も角、大学入学時には海外に強い興味があるわけでもなく留学などさらさら考えていなかった人間が、何故かソウル大学に留学することとなり、今や海外の人ともっと交流したいと考えているし、大学院以降で海外に出てみるのも1つの選択肢になってしまった。金銭面で言えば、キャンパス・アジアプログラムや短期・超短期海外留学等奨学金によって奨学金が給付されていなければ、私は今でも海外に行ったことのないままだったし、留学などたとえ望んだところで有り得なかった。又、入学してからプログラムに参加し、留学するか否かの検討を経て、そして留学を終える迄、EALAI事務局の方々や韓国朝鮮語の先生、ソウル大学の方々等々、多くの方々に支えていただいた。そして又今後もお手を煩わせることになるだろう。今のところ、私のために費やされた時間や労力や金銭に対して全くそれに見合った成果物も無く慙愧の念に堪えない。かと言って直ぐに何を生み出せるわけでも無いの

だが、もう暫しお待ちいただくようお願いすると共に、私のために費やされたものに報いることの出来るよう、今後も努力せねばならない。